



GREEN LETTER

グリーンレター

Vol. 252

2017/11/01

今月の一枚

今月のイベント

参加者募集

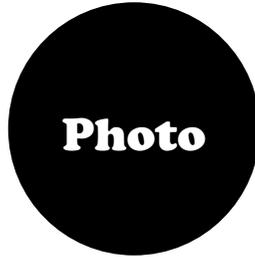
GREEN COLUMN

01. サハリンのエゾホトケドジョウ

02. 秋虫の音色



今月の一枚



「自然の宝庫 サハリン」

表紙写真・文／町田善康

川はゆったりと流れ、その水は紅茶のような色をしています。周囲には人工物が一つもなく、たくさんの木々が水際まで迫っていました。

ここはロシア、サハリン南部。北海道にはなくなってしまった自然のままの川がそこにありました。そんな川に網を入れれば、ハズレが無いほど魚が捕まり、魚好きには楽園のような場所でした。

Event. 今月のイベント

企画展「交通安全ポスター作文展」 11月3日(金)～11月21日(火)

プチ工房「モザイクタイルの写真立て」 11月8日(水),10日(金)

博物館講座(自然編)「町に住むリス、森に住むリス」 11月25日(土),26日(日)

Information. 参加者募集

プチ工房「モザイクタイルの写真立て」

●11/8(水),10(金)10:00-12:00,14:00-16:00 自由に入室。作品ができれば終了 ●美幌博物館1F 講座室 ●材料費(300円) ●城坂結実(美幌博物館) ●申込み不要。小学校3年生以下は保護者の同伴が必要。

博物館講座(自然編)「町に住むリス、森に住むリス」

【講演会】●11/25(土)16:00-17:30 ●博物館2F 視聴覚室 ●無料 ●内田健太氏(北海道大学) ●申込み不要。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要、定員50名で締切。

【観察会】●11/26(日)7:30-10:00 ●美幌町柏ヶ丘公園(集合解散は美幌博物館) ●保険料(100円), 野外で活動できる服装,長靴,雨具,防寒着,お持ちの方は双眼鏡 ●内田健太氏(北海道大学) ●美幌博物館へ電話申込み(11/1-11/22)。キャンセルは11/22まで。それ以降は不参加でも保険料100円がかかります。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要,定員25名で締切。小雨決行。悪天候時は室内で行います。

博物館講座(歴史編)「アイヌ文化を体験! トンコリを弾いてみよう」

【体験会】●12/10(日)10:00-12:00 ●博物館2F 視聴覚室 ●無料 ●結城幸司氏,福本昌二氏(アイヌアートプロジェクト) ●美幌博物館へ電話申込み(11/1-12/9)。キャンセルはお早めに。対象は中学生から一般。小学生も参加可能ですが、小学校3年生以下は保護者の同伴が必要,定員8名で締切。

今月の休館日

● ●
6日, 13日
20日, 24日
27日

〈凡例〉 ●日時 ●場所 ●費用,持ち物 ●講師 ●申込み方法

サハリンの エゾホトケドジョウ

写真・文／町田善康



昨年11月発行のグリーンレター vol. 241 でも話題にしましたが、最近、エゾホトケドジョウ (*Lefuanikkonis*) という魚に夢中になっています。この魚は、日本とロシアのサハリンに分布し、ユーラシア大陸にその起源をもちます。2017年9月に発表された大八木さんらの研究では、74万年前に大陸産の近縁種 (*L. pleskei*) から分岐したと考えられています。また、オホーツクや黒松内などの道内各地に、固有の地域集団がいることが明らかになりました。そしてなにより、青森県にくらすエゾホトケドジョウが、これまで考えられていた外来種 (人間が北海道から青森県に持ち込んだ魚) ではなく、自然分布である事が明らかになりました。

しかし、大八木さんらの研究では、国内のエゾホトケドジョウしか研究対象にされておらず、ロシアのサハリン

にくらすエゾホトケドジョウについてはわかっていませんでした。

そこで、今年度、秋山記念生命科学振興財団より助成を頂き、日本とロシアの研究チームで、サハリンのエゾホトケドジョウについて調査を行うことになりました。私も、この調査に参加し、サハリンでドジョウすくいをしました。調査が行われたのは、9月26日～28日、サハリン南部にあるヴァヴァイスコエ湖周辺。ここには、北海道で見られなくなった大湿地があり、エゾホトケドジョウの採集には、大変な苦勞をしました。底なし沼が点在する湿地に足を踏み入れたり、森の中を1時間以上歩いて川に向かったりと…。

やっとの思いで見つけたサハリン産のエゾホトケドジョウについては、今後、DNA や体の形など、詳しい調査が行われます。

02 GREEN COLUMN

グリーンコラム

秋虫の 音色

写真・文／鬼丸和幸



かん^{たん}
邯鄲の夢…その昔、とある野心家の青年が“栄華が思いのままになる”という枕を道士から借り、仮寝をしたところ、栄枯盛衰を繰り返した50年の自分の人生を、夢で見ることができたものの、夢から覚めてみれば、自分が宿の亭主に注文した粥^{かゆ}が、まだ炊き上がらないほど、束の間の出来事であった…という、人の世のはかなさを表した「ことわざ」です。

このことわざのように、その姿や鳴き声が“はかなげ”であることから、名前がつけられた昆虫がいます。カントン（邯鄲）です。体長約15mmの細長い体をした、コオロギの仲間です。雑食性で、ヨモギなどの葉や、アブラムシなどの小動物を食べます。今の季節、昼夜を問わず、草むらで♪ル〜ル〜ル〜ル〜♪と、とても美しい声で鳴いています。

日本では、古くは平安時代より「秋

の鳴く虫」を愛でる風習が貴族の間で流行していました。江戸時代になると、庶民も、コオロギやキリギリスなどの鳴く虫を虫かごに入れ、その鳴き声を楽しんでいたと言われています。同じ頃、「虫売り」という新商売も現れ、スズムシなどが販売されていたそうです。

短い北海道の秋ですが、月夜の晩にでも、カントンの声を聞いて秋の風情を楽しんでみてはいかがでしょうか。

【発行】

美幌博物館

【デザイン・編集】

城坂結実

【お問い合わせ先】

美幌博物館

北海道網走郡美幌町字みどり 253 - 4

Tel / 0152 (72) 2160 Fax / 0152 (72) 2162

mail / museum@town.bihoro.hokkaido.jp

<http://www.town.bihoro.hokkaido.jp/museum/index.html>

無断掲載・転載を禁ずる

学芸員のつぶやき



TVH で再放送されていた懐かしのアニメ「巨人の星」が、クライマックスを迎えました。挫折を繰り返しながらも、ストイックまでに一つの道を究めようとする姿は、大人になって見ても、子どもの頃に見た時の感動と、少しも変わりませんでした。(鬼丸)